

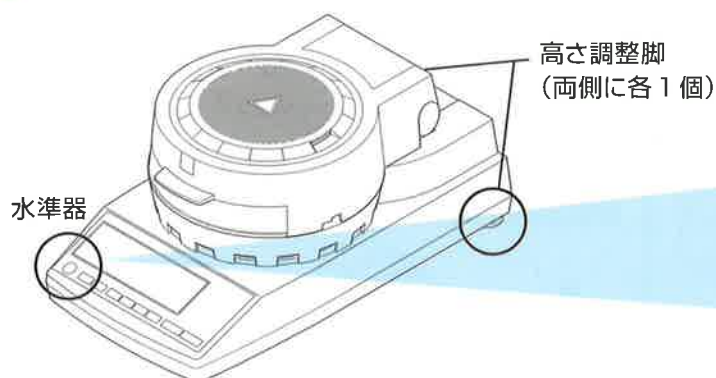
赤外線水分計 FD-720 かんたん操作ガイド

このガイドでは、赤外線水分計 FD-720 での水分測定をすぐに行えるよう、主な操作を簡易的にご説明いたします。

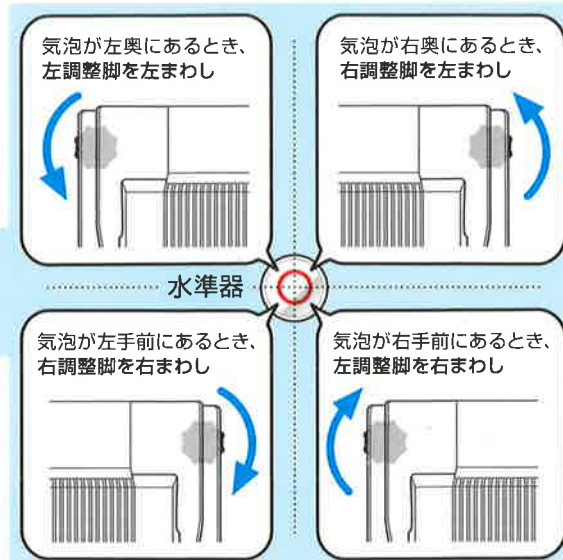
操作の前に、取扱説明書の扉ページ「赤外線水分計 安全上のご注意」および、P.6「安全に測定するために」をお読みください。

1 本体を設置します。

振動のない平らな場所におき、水準を合わせます。



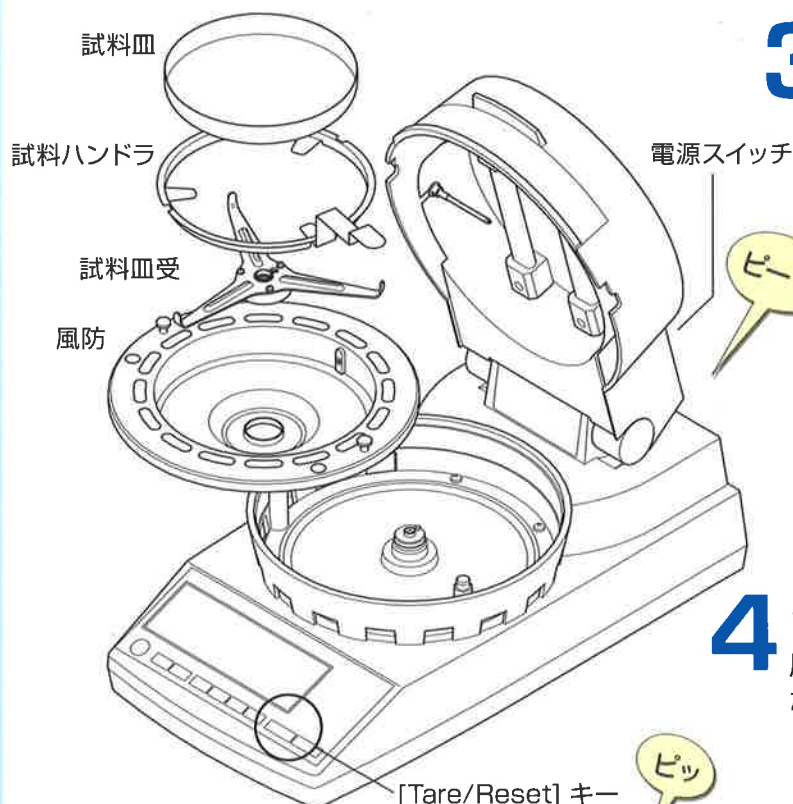
水準合わせは、高さ調整脚（左右に各1個）を用います。水準器内の気泡を中央へ動かしていきます。調整脚を左に回すと、回した調整脚側から水準器の気泡が遠ざかります。右に回すと、気泡が近寄ります。



2 付属品をセットします。

ヒーターカバーを開け、測定部に風防、試料皿受、試料ハンドラ、試料皿の順にセットします。電源コードも接続します。

* 風防、試料皿受、試料ハンドラは、取付方向が決まっています（取扱説明書 P.15 参照）。各部品の凹凸を合わせて、確実にセットしてください。

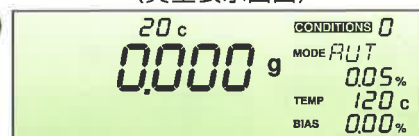


3 電源を入れます。

電源スイッチは器械背面にあります。

電源を入れると「ピーッ」というブザー音とともに画面が全表示し、自動的に内部チェックが始まります。チェックが完了すると「ピッ」という音とともに、質量表示画面になります。

〈質量表示画面〉



* 開梱後初回の電源投入時などには、画面の全表示後、横ライン（「————」）が現れます。[Enter] キーを押してください。内部チェックに進みます。

4 ゼロ点調整を行います。

風などの影響を避けるため、ヒーターカバーを閉じてから、[Tare/Reset] キーを押します。

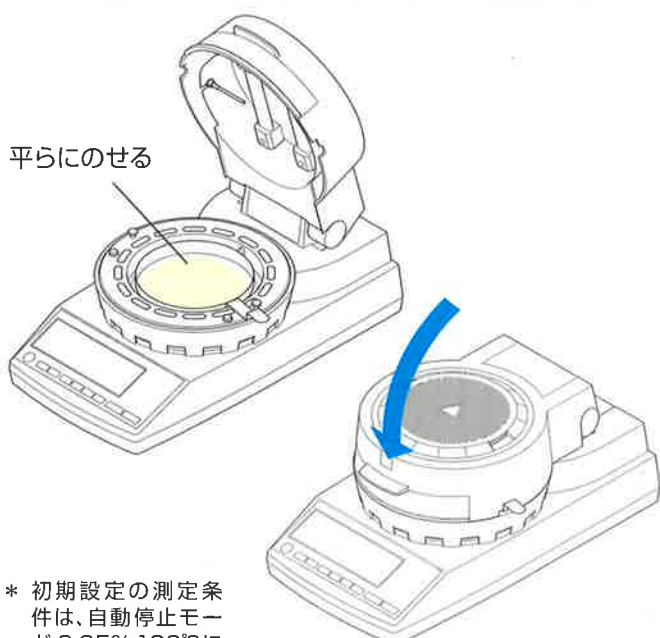
「ピッ」という音とともに、表示部に横ライン「————」が現れ調整が始まります。数秒後、再び「ピッ」という音とともに、「0.000g」と表示され、調整が完了します。

5 裏面へ続く



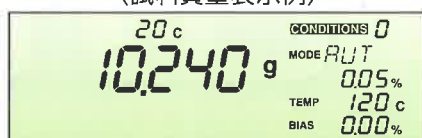
5 試料をのせます。

試料皿に試料をできるだけ平らにのせ（取扱説明書 P.17 参照）、ヒーターカバーを閉じます。



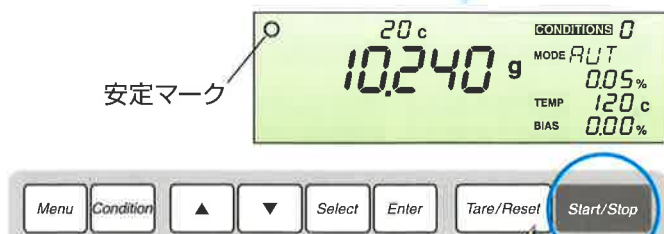
* 初期設定の測定条件は、自動停止モード 0.05% 120℃になっています。試料によっては設定を変更する必要があります。詳細は取扱説明書 P.23 を参照してください。

〈試料質量表示例〉



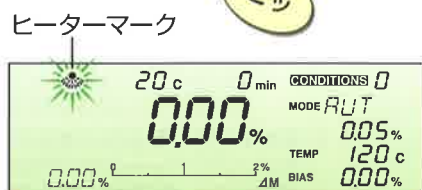
6 測定を行います。

試料の質量と安定マークが表示されたら、[Start/Stop] キーを押します。



測定が始まると、ヒーターマークが点滅します。

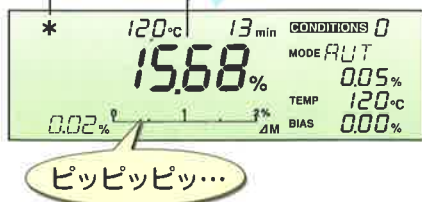
* 測定中は、器械内部が大変高温になります。取扱説明書 P.6、7、20、21 を参照の上、安全な測定を心がけてください。



測定終了マーク

測定結果 (水分値)

測定が終了すると測定結果と測定終了マークが表示され、「ピッピッピッ…」と 10 秒間ブザーがなり続けます。



7 次の測定の準備をします。

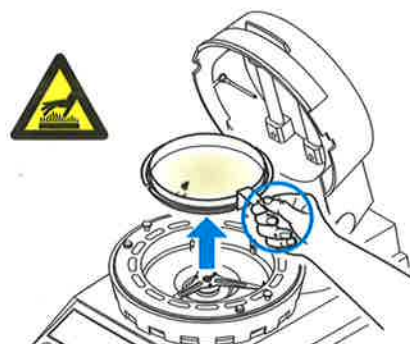
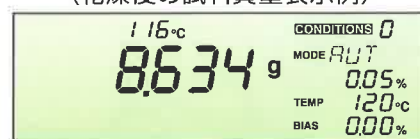
試料の廃棄、器械の清掃、次の測定へ。



ブザーがなり終わりましたら、[Tare/Reset] キーを押し、質量表示画面に戻ります。



〈乾燥後の試料質量表示例〉



乾燥後の試料を廃棄します。このときヒーターや試料皿が高温になっておりますので、かならずハンドラの取っ手を持つようにしてください（取扱説明書 P.6 参照）。



測定後、試料によっては器体が汚れ、測定値に誤差が生じる場合があります。ヒーターカバー上面、ヒーターベース、温度センサ（左図矢印）を中心に清掃してください（取扱説明書 P.18、P.65 参照）。このとき、ヒーター周辺の高温に注意してください。



再度測定する場合は、ヒーターカバーを 1~2 分程度開放し、器体を冷ましてから行なってください。またそのとき、試料皿は予備の冷めたもの（取扱説明書 P.17 参照）を使用し、4 のゼロ点調整から再び測定を行ってください。

測定がすべて終了しましたら、電源を切り、電源コードを抜いてください。